

## 1993年世界会議に向けて

### 島 蘭 安 雄

(WFMH'93世界会議組織委員長)

世界精神保健連盟 (World Federation for Mental Health, WFMH) は2年ごとに世界会議 (World Congress) を開催しています。今年は8月にメキシコで開かれましたが、明後年 (1993年) には日本で開催されます。このための組織委員会ができ、その委員長をわたくしにつとめるようにという多くの方々からのおすすめがあり、この大役をお引受けしました。浅井邦彦氏が事務局長となり積極的に活動して下さっていますが、皆様にも全面的なご協力をいただき度く、宜しく願い申し上げます。

#### 1) WFMHについて

WFMHとはどういうものか、ということについて連盟が作成した簡単なパンフレットには、以下のように書かれています。

WFMHとは：WFMHは、世界が唯一の、国際的な、多方面の領域にわたる、非政府的な、精神保健に関する連合体で、個人、専門家の諸組織、およびボランタリーの各組織からなっています。この連合体は国連とそれに属する専門的な諸機関のすべてに対し、精神保健に関して助言を与える立場にある非政府組織 (NGO) であります。

WFMHの目的：その主要な目的は、精神疾患患者とその家族の権利と福祉を擁護・推進し、傷つきやすい人々が精神的な不健康状態になることを予防し、さらに望ましい精神的・情緒的な生長・発達を推し進めることであります。

WFMHの運営：連盟は、WFMHの活動に積極的に関与している各メンバー団体 (active Member Associations) の代表者からなる役員会 (Board of Directors) によって運営されています。事務はボランティアの事務局長 (Secretary General) のもとで行われています。1991年から1993年の期間の会長 (President) は、M. Abbott (ニュージーランド) で、副会長 (Regional Vice Presidents) の1人に浅井邦彦氏 (西太平洋地区担当) が入っています。事務局長とその補佐は、E. B. BrodyとR. Hunter (共にアメリカ) です。

委員会：委員会には幹事会 (Executive Committee)、会員資格委員会 (Membership Committee)、財務委員会 (Finance Committee)、指名委員会 (Nominating Committee)、その他があります。幹事会は役員会のすべての義務を行うための執行部で、President以下の5名と、会員資格委員会の委員長から構成されています。

総会：総会 (Assembly) は毎年、少なくとも1回開かれることになっていますが、世界会議が開かれる年 (奇数年) には、その機会に開催されます。

#### 2) 世界会議 (World Congress) について

第1回の世界会議は1930年にワシントンで開かれました。この会議開催のそもそものきっかけは、1908年、Clifford W. Beersが「わが魂にありまで」(A Mind That Found Itself)と題する自己体験記を出版したことにありとされています。この書物は江畑敬介氏によって1965年の第36刷のものが邦訳されていますが、この改刷の数からもわかるように、世間に大きな反響を呼び起こしました。江畑氏によれば、Beersは1928年にアメリカ精神衛生財団の設立にこぎつけ、これの成功によって世界会議を開くことができたということでもあります。

「精神神経学雑誌」の前身である「神経学雑誌」の第32巻の雑報には、植松七九郎氏による「第1回国際精神衛生会議に臨みて」と題する報告が2ページにわたって掲載されています。会議参加国は53、参加者総数は約2,500名で、アメリカ以外の会員は180人、わが国からは三宅鉦一氏と植松七九郎氏が公認代表として参加しました。アメリカのフーバー大統領は名誉総裁として各国代表に会い、ウイルバー内務大臣も各国代表招待宴に出席して挨拶し、主催国として大変力を入れていたことがわかります。

第2回の会議は1973年にパリで開かれましたが、その後は第2次大戦のために開催がおくれ、ようやく1948年にロンドンで第3回の会議がもたれました。そしてこのときにWFMHが創立され、初代のPresidentはJ. R. Reesがつとめました。

世界会議は2年に1回の割で開かれて来ましたが、浅井邦彦氏の学会印象記に従って、最近の何回かの会議についてふれると、以下のとおりです。

1983年には7月にワシントンで開催されました。40カ国から700人を越す人々が参加し、わが国からは50人余りが出席し、開催国に次ぐ数を占めました。メイン・テーマは「心の健康を求めての個人と社会の責任—精神衛生施策の立案とサービス提供におけるボランティア、専門家と行政の協同」で、また「精神衛生に関するコミュニティの責任」と題する全体会議では、ロザリン・カーター前大統領夫人が講演と討論を行ったということです。WFMH創立の35周年に当り、そのための記念式典が行われ、またBeersに始まる精神衛生運動の75周年記念行事も持たれました。

1985年には7月にイギリスのブライトンで開催されました。この会議の準備・運営にはイギリスの全国精神衛生協会であるMINDが当り、WFMHと共催で開催され、開会式にはMINDのパトロンであるアレキサンドラ王女が出席しました。35カ国から、750人あまり(同伴者や患者・家族・ボランティアを含めると1,000人以上)が参加しメイン・テーマは「メンタル・ヘルス2000」とされました。この会議の最大の特徴は「精神衛生2000年憲章」、いわゆる「ブライトン宣言」(日本精神衛生会発行の「心と社会」の第44号、47~69ページにこれの全訳がのっています)が行われたことでもあります。その項目は、序文、一般原則、人権としての自己決定—精神保健サービスにおける意義、児童・青年および高齢者の権利、精神保健の分野におけるボランティア・セクターの役割、病院および施設を基盤とする精神障害者サービスに代わるべき施策、社会保障による援助と福祉—疾病後の自立の再建、精神保健と法、精神障害の予防と精神保健の推進、治療の選択、差別と精神保健、結論、からなっています。

1987年の会議は、10月にエジプトの首都カイロで開かれました。40カ国から、1,100人余りの会員が参加し、メイン・テーマは「世界の様々な国における心の健康」で、エジプト精神衛生協会と世界イスラム精神衛生協会が主催しました。

開催地の関係で、エジプトを始めとするイスラム諸国およびアフリカ、ヨーロッパ諸国からの参加者が多く、先進国と発展途上国がかかえている諸問題が広汎にとりあげられました。

1989年の会議はニュージーランドのオークランド市で、初春の8月に開かれました。46カ国から1,

000名余りの参加があり、わが国からは90人以上が出席しました。メイン・テーマは「メンタル・ヘルス各人の関与」で、この会議において、1993年の会議を日本で開くことがきまりました。

本年は8月にメキシコ市で開かれました。メイン・テーマは「人間と科学—精神保健のために」とされていましたが、プログラムにもメイン・テーマとしては書かれておらず、影のうすい存在でした。現代社会と公衆衛生、利用者（Consumers）、ニーズ・要求と精神保健サービスの選択、アルコールと精神保健、喫煙と精神保健、薬物依存と麻薬売買、外傷ストレスと被害者学、交差文化と少数者問題、人口と精神保健、精神薄弱と情動的安定、宗教・普遍的価値と情動発達、医用生物学的テクノロジー・人権と精神保健、社会的コミュニケーション科学と精神保健、文化間環境における教育と精神保健、難民・移住と精神保健、その他、児童や若者（ユース）、女性をテーマにしたものなど22のテーマごとに全体会議と各セッションが持たれました。

6,000人を越す人々が参加したということですが、メキシコとその周辺の国々の人々が主であったようです。外国からは約50カ国から800人余りが参加したとされていますが、全体のバランスからいうと、国際色のうすい会議でした。

なお1983年のワシントンの会議以来、毎回、本会議に先立って「精神保健協会デー」（Mental Health Association Day）の行事が催されて来ました。1989年には「コミュニティ精神保健サービスの質」、本年は「擁護、教育と行動」というテーマで、各国の精神保健運動にたずさわっている専門家、家族、利用者などが参加し、それぞれの活動状態の報告などが行われました。

### 3) 1993年世界会議

WFMH世界会議を日本で開いてほしいという要請はすでに10年前からありましたが、国内の受け皿などの事情で実現に至らなかったということでもあります。しかしオランダでの会議の折に1993年の日本開催が決定し、その後、段々に国内体制が整い、準備が進められて来ています。

準備状況の一部は、組織委員会で発行したパンフレット（世界精神保健連盟1993年世界会議ニュース1）や「開催趣意書」でご覧になった方が多いと思います。主催機関は「世界精神保健連盟1993年世界会議組織委員会」で、初めにも述べたように、小生が組織委員長をつとめることになりました。浅井邦彦氏が事務局長で、総務委員会の委員長も兼ね、活発な活動をしています。

会場は、なるべく多くの人々が参加しやすいところという見地から、千葉県の日暮野コンベンションセンター（幕張メッセ）とそれに隣接するO.V.T.A.（財団法人海外職業訓練協会）の協力センターに決めました。メイン・テーマは「21世紀をめざしての精神保健—テクノロジーと文化そしてクオリティ・オブ・ライフ」（Mental Health : Toward the 21st Century - Technology, Culture and Quality of Life -）としました。サブ・テーマについてはなお若干の変更があると思いますが、以下のものがあげられています。

- A. 変動する世界と精神保健、B. 人口問題と精神保健、
- C. テクノロジーとストレス、D. 精神保健と宗教・文化、
- E. アルコール・薬物乱用への対応、F. 児童・青年期の教育と精神保健、
- G. 一次予防の新しい方向、H. コミュニティケアの新しい方向、
- I. 精神障害者の職業リハビリテーション、J. 精神保健への市民参加、
- K. 精神障害者の権利と法制度、L. 臨床および研究の新しい展開、
- M. 女性、家庭と精神保健、N. 老年期と精神保健、
- O. 精神障害の看護と介護、P. 精神障害者の福祉と家庭、

Q. ユーザー活動

組織委員会に、総務委員会、財務委員会、プログラム委員会、広報・渉外委員会、旅行・登録委員会、接遇委員会、記録・出版委員会、会場・展示委員会と募金実行委員会を設け、多くの方々にご協力をいただいています。

この会議を契機にわが国における精神保健への関心を大々的に盛り上げ、それを通じて障害者はもちろん、すべての人々の精神的健康と福祉の増進に寄与したいと考えております。できる限りのご協力をお願い申し上げます。